



私たちができること

日出学園中学校 二年 平良 志帆

犯罪者の立ち直りとはなんだろう。私が初めて聞いたとき何も思い浮かびませんでした。犯罪者の立ち直りってなにがあるんだろうと思う人も多いのではないのでしょうか。犯罪者の立ち直りは周りの人で変わると考えます。

私が犯罪のない地域づくりや犯罪を犯した人の立ち直りについて考えたことは、どんな取り組みがあるのか把握しておくべきだということです。この間自分でどんな活動があるのだろうと調べたとき、法務省のサイトを見つけました。そのサイトには犯罪者の立ち直りに私達が協力できることがたくさん載っています。「おお意外と自分が協力できることはあるんだな」と感じました。私のようにどんな活動があるのかわかることにより、犯罪から立ち直ろうとしている人への見方や偏見が変わるのではないのでしょうか。

私自身、調べてみて思ったことは、犯罪から立ち直るためにはそのひと本人の意思はもちろん必要ですが、周りにいる人のサポートがとても大切だということです。法務省が出しているアンケート結果では、「なるべく関係を持たないようにしたい」「他のところへ引越してほしい」といった意見も多く、犯罪者にはあまりいいイメージを持っていない事が分かります。ですが、そのようなイメージを持っている社会では犯罪から立ち直ろうとしている人たちはどうなるのでしょうか。

私は、もし自分が立ち直ろうとしている側だとしたらどういうふうな社会が立ち直りやすいのか考えてみました。私が立ち直る側だったら、周りの人からの挨拶や心配りがすごく心強いなと思いました。もし今誰からも相手にされず心配もして貰えなくなったら、私は自暴自棄になってしまうかもしれません。

ですが、誰か、一人でもいいから自分の存在を認めてくれる人がある場合ならなんとか生きていけそうです。

自分の存在を認められる事とは何があるだろうと考えたとき、朝学校へ登校する途中に旗振りをしていておじいちゃんやおばあちゃんのことを思い出しました。小学生の頃、インフルエンザに感染してしまい学校を一週間休んだことがあります。一週間後登校した時、その旗振りの方は「ずっと来ていなかったけど大丈夫？」と心配してくださいました。私はその時、自分のことを覚えていてくれたんだ、いいことを知っていたんだとすごくびっくりしました。その数日後、私は「なんで休んでいたことを知っていたのですか？」と聞いてみました。するとその方は、「毎日元気に挨拶してくれる子だからすごく印象に残っているんだよ」と仰っていました。それを聞いて、毎日挨拶してよかった、これからも元気に挨拶しようと思えました。認めてもらい、心配してもらおうとすごく嬉しくなり、もっと頑張ろうと思えるということその時学びました。犯罪から立ち直る人たちもきっと私たちと同じだと思います。犯罪者だから、非行を犯したからと言って差別するのではなく明るい社

会のために、平等に接しサポートすることが大切だと考えました。

平等に接しようと言ってもアンケート結果のように、犯罪者に怖い印象があるのは事実です。そのため、犯罪の再発防止のために相談場所を提示したり、犯罪者を支援する人たちがいることを不特定の人が見るSNSで宣伝することも私ができることの一つです。

自分たちができることからひとつずつやっていけば犯罪のない社会、いじめのない社会に近づいていくのではないのでしょうか。まずは自分に出来ることが何なのかだけでも知ってもらうことが必要だと思います。